

PPC用紙やインクジェット用紙など記録紙の市場を調査

2012年予測 情報記録紙の世界市場は08年比13.1%増の3兆6,116億円

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、オフィスをはじめ幅広い用途で使用されるPPC用紙やインクジェット用紙、感熱記録紙といった情報記録紙の市場を調査した。また、関連する材料やプリンタなどの機器の市場も併せて調査した。その結果を報告書「2009 高機能情報記録紙・材料市場の展望」にまとめた。

<調査結果の概要>

情報記録紙の国内市場

2008年	2009年見込	2012年予測	08年比
3,982億円	3,885億円	4,037億円	101.4%

08年の情報記録紙12品目の国内市場は前年比4.1%増の3,982億円となった。国内では需要が拡大している（若しくは拡大が期待される）品目と、需要が縮小している品目の二極化がより鮮明になってきている。

拡大が期待されるのは、感熱記録紙や感熱技術を活用したリライタブルペーパー、フォトプリント用紙、特殊加工されたクリーンペーパーなどである。感熱記録紙はキャッシュレジスター（レシート用途）向けが拡大している。リライタブルペーパーはRFID向けの需要拡大が期待される。フォトプリント用紙はセルフプリント端末の普及、クリーンペーパーは半導体や医薬品メーカー等のクリーンルームに欠かせない用紙であることから需要の拡大が期待される。

逆に需要の減少が予測されるのは、磁気記録紙や熱転写溶融型用紙などである。また、手書きを必要とする感圧記録紙も配送ラベル等の用途においては感熱記録紙などに移行する動きもみられ、需要は減少している。

世界市場 2008年 3兆1,935億円 2012年予測 3兆6,116億円（08年比113.1%）

08年の世界市場は前年比2.6%増の3兆1,935億円となった。日本を始め欧州や北米といった先進国の需要が市場を牽引してきたが、その需要も頭打ちに近く、また不況の影響もあり、全体的に伸びが鈍化している。景気回復後も先進国では大幅な需要増が期待し難い状況にあるが、BRICsや東欧、東南アジアといった新興国・途上国では需要開拓の余地は十分残されていることから、今後は新興国・途上国の需要が市場を牽引していくと予測される。

<注目市場>

1. PPC (Plain Paper Copier) 用紙の国内市場

2008年	2009年見込	2012年予測	08年比
1,516億円	1,521億円	1,572億円	103.7%

PPC用紙は、一般上質紙に表面の電気抵抗、プリンタ上での走行性、カール特性などの品質特性を持たせた用紙である。インクジェットプリンタやレーザープリンタなど様々なプリンタとの相性もよく、且つ安価で汎用性も高いことからオフィスをはじめ幅広い用途で最も多く使用されている。かつてはプリンタメーカーが純正品を販売していたが、量販店や事務用品の通販会社などでも安価で品質面でも差の無い汎用品が販売されている。現状では汎用品が主流となっている。

08年のPPC用紙の国内市場は前年比8.4%増の1,516億円となった。輸入紙が全体の25~30%程度

を占めている。国産紙に比べ安価であるため、事務用品の通販会社などはOEM供給を受けて自社ブランドで販売している。今後も少しずつ輸入紙の割合が高まっていくと予測される。

世界市場 2008年 1兆3,506億円 2012年予測 1兆6,422億円(08年比121.6%)

08年の世界市場は前年比3.6%増の1兆3,506億円となった。欧州や北米は成熟市場となっているが、アジアを始めとした地域では需要が拡大していることから、今後も市場拡大が予測される。

2. インクジェット用紙(インクジェット専用紙)の国内市場

2008年	2009年見込	2012年予測	08年比
461億円	463億円	488億円	105.9%

08年の国内市場は前年比1.5%増の461億円となった。インクジェット用紙は、マットタイプ、光沢タイプ、フィルムタイプに分類されるが、国内ではマットタイプが70%以上を占め、市場を牽引している。しかし、価格競争も激しいことから、各メーカーは写真用で付加価値の高い光沢タイプ(特にRCペーパー)に注力度を高めている。

各タイプとも業務用の大判(ワイドフォーマット)はポスターや看板、POP等のウエイトが高い。このほか、マットタイプはインクジェットプリンタ専用年賀はがき、光沢タイプは画像を出力する場合に使われる。ポスターなどはこれまでオフセット印刷が利用されていたが、少量作成の場合は経費削減のため社内のインクジェットプリンタで出力する流れがあることから需要の増加が期待される。また、光沢タイプはフォトブックなど新たな用途展開も見込まれる。逆に年賀はがきは電子メールなど他の通信手段の普及に伴いそれ自体の需要が減少している。

世界市場 2008年 4,461億円 2012年予測 5,118億円(08年比114.7%)

08年の世界市場は前年比2.9%増の4,461億円となった。欧州や北米では日本と同様にインクジェットプリンタが普及している。その上、日本よりもオフィス用途で使用されるケースが多いため需要は多い。その他の地域では、インクジェットプリンタがまだ普及していないため需要は少ないが、今後はプリンタの普及に伴い需要の拡大が予想される。

3. 感熱記録紙の国内市場

2008年	2009年見込	2012年予測	08年比
344億円	337億円	378億円	109.9%

感熱記録紙とは熱エネルギーを利用して印字する自己発色型用紙である。主な用途としては、感熱記録紙対応のファクシミリやキャッシュレジスター(レシート用途)向け、配送や物流、食品のラベル用途などがある。感熱記録紙対応のファクシミリ自体が減少していることから、ファクシミリ向け需要は縮小しているが、キャッシュレジスターのレシート用途は堅調であり、ラベル用途なども比較的安定している。

08年の国内市場は前年比2.4%増の344億円となった。キャッシュレジスターのレシート用途の需要が最も多く、堅調である。レシートは広告やクーポン券の他、カードによる決済時には残高やポイントなどが印字されることから、用紙の使用量が増加している。ラベル用途も食品向けが堅調である。一方、配送や物流のラベルなどは、08年秋以降流通にブレーキがかかったことで急速に需要が減少した。

世界市場 2008年 3,374億円 2012年予測 3,968億円(08年比117.6%)

08年の世界市場は前年比5.3%増の3,374億円となった。ドイツのケラー社がトップシェアで20%強を占める。

欧州や北米は、日本と同様にレシート用途の需要が最も多い。しかし、感熱記録紙対応のキャッシュレジスターはほぼ普及しきっているため、その伸びは僅かである。一方、日本を除くアジアやその他地域では、感熱記録紙対応のキャッシュレジスターの普及率が低い。今後は感熱記録紙対応のキャッシュレジスターの普及に伴い需要の拡大が期待される。また、ラベル用途やチケット類などの需要は、地域を問わず拡大すると考えられる。

以上

<調査対象>

情報記録紙 12品目	インクジェット用紙(マットタイプ、光沢タイプ、フィルムタイプ)、感熱記録紙(ファクシミリ用途、プリンタ用途、ラベル用途/その他用途)、感圧記録紙、PPC用紙、磁気記録紙、OCR用紙、フォーム用紙、熱転写用紙(溶融型)、熱転写昇華型プリンタ用サプライ、偽造防止用紙、リライタブルペーパー、クリーンペーパー
情報記録材料 11品目	感熱用色材、感熱用顕色材、感熱用増感剤、感圧用色材、感圧用顕色材、ラベル用粘着剤、トナー用樹脂、トナー用顔料(カラー)、トナー用顔料(カーボンブラック)、インクジェットプリンタ用インクカートリッジ、レーザープリンタ用トナーカートリッジ
情報記録機器 5品目	インクジェットプリンタ(SFP/MFP)、大判用インクジェットプリンタ、熱転写昇華型プリンタ(家庭用/業務用)、レーザープリンタ、業務用複合機

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献を併用

<調査期間>

2009年2月~4月

資料タイトル:「2009 高機能情報記録紙・材料市場の展望」

体 裁 : A4判 256頁

価 格 : 100,000円(税込み105,000円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第三事業部

TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5821 (代) FAX 03-3661-9514 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>